

## 城東区「なにわ元気アップ会議」 議事録（要旨）

開催日時：平成21年12月5日（土） 10：00～11：30

開催場所：城東区在宅サービスセンター（ゆうゆう）

懇談会参加者：城東区でボランティア活動をされている3つのグループの皆さん（11名）  
（手話サークル「つちのこ」・おもちゃ図書館「トライアングル」・団塊世代の集まり「団塊・シニア談議」）  
城東区ボランティアビューロー ボランティアコーディネーター（1名）

当日進行内容：① 城東区長開会挨拶  
② 市長挨拶  
③ 参加者自己紹介・取組報告  
④ 懇談  
⑤ ボランティア実演  
⑥ 市長コメント  
⑦ 閉会

### 【懇談における意見交換内容要旨】

（区長） 最初にボランティアをされた時にお感じになったこととか、そのきっかけでござい  
ますとかを、お話いただけますでしょうか。

（参加者A） 私は今年10月にボランティアデビューしました。施設訪問の2週間ほど前からプロ  
グラムをみんなで決めまして、私の演目は童謡の「ふるさと」を手話で歌うことだっ  
たんですが、できなかつたら大変ですので買い物の行き帰り、どこに行くのでも忘れ  
てはいけないと思い必死で覚えました。施設はすごくきれいな所で、私たちが演じる  
30分間、我慢してもらえるかなーという不安ばかりだったのですが、アンコール  
もあわせて50分間、自分の方がしっかりと楽しんできました。ですから、施設訪問  
を通じて私は反対に元気をいただいて帰ってきたように思っています。

（区長） ボランティア活動をする上で、例えばこんなことがあったらいいなとか、もっとこ  
ういうことをしたいなとか、そういったご意見ございませんでしょうか。

（参加者B） ボランティアに対し求めるものと、ボランティア側から発信するものとの、受け渡し  
が素早くできるようなネットワークづくりが必要ではないかなと思うんです。

(市長) どうも役所というのは、お役所仕事とよく言われますけれども、「それをするには、これくらいの申請書を書いていただいて、その申請書にのっとって活動していただいて、あるいはその費用を請求される場合には・・・」という、手続き上の煩雑さが、どこまでもついてくるのかなと思います。「いやちゃうねん、私たちは、困っている人に自分の能力を活かして、お手伝いをしたいと思ってるだけやねん」ということから言えば、ボランティアビューローが持つ連絡網というのは、非常に今有効に機能していると言っているのでしょうか？

(参加者一同) はい。

(市長) ボランティアビューローは24区にあるんですね？

(参加者C) はいそうです。

(市長) 市長になって丸2年になろうとしていまして、市民協働ってことを大きく言ってます。今は財政難ですから、昔はいろんな市民サービスを提供することができたのですが、それをきっちり削っていかないといけないような財政状況の中で「今大阪にはすごい市民の皆さんがいらっしゃるから、そういった市民の皆さんの力を借りながら、役所が先頭に立って走って、大阪の元気を盛り上げていく方向はないのだろうか」ということをずっと言いつづけています。

(参加者D) 私の子どもは、日常の学校生活において介助が必要なんですけど、その子が入学する時にものすごく苦勞しました。たまたま学生さんに知り合いがおりましたので、その人をお願いして、3名ほどボランティアを集めることができました。その学生ボランティアさんを学校の方に紹介したんです。学校もボランティアを受け入れていただき、6年間継続して続いています。たまたま、私の場合は、うまくいきましたが、このようなことができなくて、困っている親御さんが、たくさんおられるので、学校への学生ボランティア受け入れをシステム化していただければと思います。

(市長) そこまでの動きをつくっていただいたことをきちっと分析・評価した上で、じゃあ全市的にどうあるべきなのか、大阪市全体の問題として考えたいと思います。

(参加者E) 地域の組織っていっぱいありますよね、役所がこのような組織に働きかけをしていただいて、このような活動をしているってことを、地域の方々にも、もっと知っていただけたらと思います。このような活動が一部の話じゃなくて私たちの地域でもあるんだって知ってもらったら、意識は絶対変わっていくと思うんです。

(市長) 区役所とか市役所は何のためのにあるのかみたいな、そういう根本の議論になってくるかと思います。市民協働の中で、一番強く言っているのは、「区役所が先頭に立って走ってよ」ということです。地域振興会の組織率が減ってきた、役員になり手が無い、そんな時に区役所が、どれだけの動きをしたかによって地域の動きは変わってくると信じている部分があります。これからいろんな面で、細かい区役所のあり方みたいなものを全庁的に考えていきたいのですが、全庁的に考える中で、「これが全部の区役所に必要ですよ」という形にはしたくないと思います。その区その区によって、住んでおられる方の思いとか、例えば地域振興会が活発であるとか、一方で女性団体協議会が活発、いやいや、コミュニティ協会の方が活発というように様々な形がありますので、最も住民の力が発揮できるような形で、その区その区が考えてほしいと思います。ぜひ皆さんも今の自主的な束縛感のないボランティア活動というものを、大事にしている中で、ボランティアグループについての情報を市がしっかり持つてる、でも、その情報は、区社会福祉協議会あるいは市社会福祉協議会が、しっかりとした動きをしてもらっているからあるんだという形になっていけばと思っています。

最後の言葉として、

(市長) 私から締めのご挨拶をさせていただきます。本当に日ごろボランティアビューローを使っていただいて、いろいろな活動をしていただいて、多くの方にあたたかい空気を送っていただいてありがとうございます。大阪市としても、そういった市でありたいと、大声で言い始めています。今までは単に「大きな都市や」、あるいは「街頭犯罪が日本一多いんや」とか、「違法駐輪が日本一多いんや」とかいうものを、指をくわえて見ていただけのまちが、皆さんの力を借りながら、変わっていかうとしていますので、ぜひそういったお力をお貸しいただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。